【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第５区分
【発行日】平成27年3月5日(2015.3.5)

【公開番号】特開2013-159862(P2013-159862A)
【公開日】平成25年8月19日(2013.8.19)
【年通号数】公開・登録公報2013-044
【出願番号】特願2012-20150(P2012-20150)
【国際特許分類】
Ａ４１Ｄ　1/04　(2006.01)
Ｄ０４Ｂ　1/24　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ４１Ｄ　1/04　S
Ｄ０４Ｂ　1/24
Ａ４１Ｄ　1/04　T

【手続補正書】
【提出日】平成27年1月19日(2015.1.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
図１（Ａ）のカーディガン１は、前身頃２と後身頃３とを備え、前身頃２は右前身頃部２Ｒと左前身頃部２Ｌとに分かれている。右前身頃部２Ｒは、ベース編地部２０Ｒと、このベース編地部２０Ｒに接合される前立て部２５Ｒと、を有する（左前身頃部２Ｌも同様の構成を備えるので、その説明は省略する）。このカーディガン１の最も特徴とするところは、ベース編地部２０Ｒと、前立て部２５Ｒとの接合状態にある。以下、図１（Ａ）のＢ－Ｂ断面図である図１（Ｂ）を参照し、ベース編地部２０Ｒと前立て部２５Ｒとの接合状態を説明すると共に、図２、図３を参照し、その接合状態を作り出すための編成方法の一例を説明する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２２】
Ｓ１には、給糸口８から給糸される第一編糸を用いて、ＢＤの編針ｋ～ｉに部分編地部５０の編目列を、ＦＤの編針Ｈ～Ａにベース編地部２０Ｒの編目列を編成した状態が示されている。また、Ｓ１には、給糸口９から給糸される第二編糸を用いて、ＦＤの編針Ｉ～Ｑに表側編地部５Ｆの編目列を、ＢＤの編針ｌ～ｑに残部編地部５９の編目列を編成した状態も示されている。給糸口８は紙面左側、給糸口９は紙面右側に配置されている。給糸口８は、給糸口９よりも前針床（ＦＤ，ＦＵ）寄りの給糸口である。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２８】

以降は、Ｓ２～Ｓ９を繰り返して、ベース編地部２０Ｒと前立て部２５Ｒの編成コースを増しつつ、両者２０Ｒ，２５Ｒを接合する。以上説明した編成例１によれば、主として表目で構成される部分編地部５０によって前立て部２５Ｒの表側編地部５Ｆをカーディガンの表面側に膨らませることができる。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３３】

Ｔ６では、ＦＤの編針Ｑ～Ｉで表側編地部５Ｆの編目列を、ＦＵの編針Ｈ，Ｇ、およびＢＤの編針ｆで追加編地部５５の編目列を編成する。そして、Ｔ７では、ＦＵの編針Ｈ，Ｇ、およびＢＤの編針ｆで追加編地部５５の編目列を、ＦＤの編針Ｉ～Ｋで表側編地部５Ｆの一部の編目列と、ＢＤの編針Ｌ～Ｑで残部編地部５９の編目列を編成する。以上説明した一連の編成（Ｔ２～Ｔ７）によって、第一編糸におけるベース編地部２０Ｒと部分編地部５０とを繋ぐ部分と、第二編糸における表側編地部５Ｆと追加編地部５５とを繋ぐ部分の交差が確定し、ベース編地部２０Ｒと前立て部２５Ｒとが境界部Ｘで無縫製に繋ぎ合わされる。また、Ｔ７において、表側編地部５Ｆと部分編地部５０との間が開かないように両編地部５Ｆ，５Ｂが繋ぎ合わされる。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】

≪その他の編成例≫

編成例１，２における表側編地部５Ｆと残部編地部５９の編成順序は変更することができる。例えば、図２のＳ７でＦＤの編針Ｈにタックを行なった後、ＦＤの編針Ｉ～Ｑで表側編地部５Ｆの編目列を編成する。次いで、ＢＤの編針ｑ～ｌで残部編地部５９の編目列を編成し、最後にＳ９と同じ編成を行なう。